

悟りの世界と 迷いの世界



柳 幹康

今回は白隠が説く悟りの世界と迷いの世界の関係について見てまいります。

白隠によれば我々は本来、悟りの世界のなかに生きているにも関わらず、智慧の眼が開いていないために、それを迷いの世界だと見誤っているのだと言います。この点について白隠は次のように述べています。

人々はみな仏の智慧徳相を欠くことなく具えており、それぞれ光輝く仏性（仏の本性）という素晴らしい宝珠を円かに備えている。この娑婆（苦しみに満ちた世界）はそのまま光輝く浄土であり、みな毘盧遮那仏（宇宙に遍満する仏）の真理の世界に住んでいるのだ。ところが智慧の眼が開いていないために、それを（迷いの）娑婆であると見誤り、（本来仏である自分を迷える）衆生

と誤解し、得難き人としての生を受けながら牛馬同様にほんやりと何の弁えもなく徒らに過ぎ、悲痛に満ちた輪廻の世界をさまよっている。(本当は)何ら変わることはない毘盧遮那仏の光輝く真理の世界であるのに、それを無間地獄(苦しみが止むことのない地獄)と誤認しているのだ。

〔遠羅天釜〕 卷上

智慧の眼が開いていないこと、つまり迷いの世界に陥っていることの原因について、白隠は次のように述べています。「よくよく見てみれば、つまるところ我見(我という自己の本質があるという邪見)が原因なのである」(『遠羅天釜 続集』)。それぞれが「自分」というものがあり、「他人」とは違うと考えるので、「老若男女や尊卑僧俗、美しい醜いと様々な相違が生じ、

愛憎・嫉妬・吝嗇・執着など(様々な邪念が)雲霧のように巻き起こり怒濤のように押し寄せ、三毒(貪・瞋・癡)という根本的な三種の煩惱と五欲(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)に関する五種の欲望)で胸が一杯になってしまい、日々無数の悪業を重ねて、昼夜輪廻の世界をさまよひ、死後苦しみの世界に陥る」のだといえます(『仮名律 附たり新談義』)。

このことに気づかず無為に時を過ぎす限り、迷いの世界から脱することはできません。そこで白隠は次のように唄っています。「皆々御眼を覚されよ、御眼が覚ぬと一生を、暗で暮して後の世は、琰魔(閻魔)の支配免れず、貴賤高下の隔て無、御油断成被と獄卒の、杖下の御客で御坐るぞや、早く心を翻がえし、浮世の境に迷わぬ様に、己が生れた心の鏡、磨き照すが肝要じゃ」(『寝惚之眼覚』)。本来有していた仏と

しての働きを回復し、迷いの夢から眼を覚ませ
というわけです。

その夢を覚ます方法について白隠は、次のよ
うに述べています。

（禅宗初祖の）達磨大師が言っている。「も
しも仏の悟りを完成させようとするのであ
れば、まずは見性けんじょうせよ」と。たとえば或る
人が夢のなかで様々な苦しみを受けている
場合、あれこれ手立てを尽しても夢のなか
では救うことができない。夢のなかの苦し
みから逃れようとするのであれば、夢を覚
ますのが一番である。……また真理と人欲
とは、稲いねと稗ひえのような関係にある。稗ひえが蔓延はびこ
れば稲は自ずと枯れてしまい、稲が繁茂す
れば稗は自ずと見えなくなる。それゆえ稗
を無くすには稲を育てるべきであり、人欲

を制するには真理を見るのが一番である。

（『兔專使稿』）

夢を覚ますには見性（真理を見ること）が肝
要であり、それにより苦しみの元となる欲望も
自ずと尽きるのだといいます。

次回は見性とそれを得る手段の坐禅について
見て参ります。

柳 幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、
博士（文学）。東京大学東洋文化研究所准教授・花園大学国際神学
研究所客員研究員（副所長）。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の
研究——一心による中国仏教の再編』（法蔵館）。

お知らせ

俳壇の選者を務めていただいております武田伸一先生が、
今号をもちまして退任されることとなりました。
15年の長きに亘ってお世話になり、誠にありがとうございました。
この場をお借りして御礼申し上げます。

なお、来月号からは、^{やぎゅうまさな}柳生正名先生に務めていただきます。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便
はがきを使用し、各三句(首)までを読み
やすく書いてお送りください。

*ズ切りは毎月1日です。

「花園」へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、
「編集室花園係」までお送りください。
お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

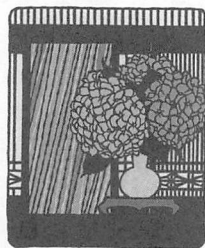
- *住所、氏名を必ずお書きください。
- *俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)
- *なお投稿はお返しいたしません。

花園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第71巻 第6号(通巻第838号)
令和3年6月1日発行(毎月1日発行)
定価55円
- 【発行人】野口善敬
- 【編集人】石田信行
- 【印刷人】喜田眞司
- 【発行所】京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替 / 01060-9-1400
電話 / 075-463-3121

表紙の絵「紫陽花(あじさい)」



しとしとと降り続く雨も、
恵みの雨と思えば。

絵・正親 里紗(おおぎりさ)

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。

下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話:075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。